kenko column

秋田竿燈祭り

仙台七夕祭り

夏といえば夏祭り。冬の長い東北にとって、夏の祭りはとりわけ心おどるもの。祭りには、楽しさだけではない効用があります。

夏祭りはどこから?

青森のねぶたに弘前ねぶた。秋田は竿燈。盛岡さんさ。仙台七夕に山形の花笠まつり。思い浮かべただけで、心が浮き立ちそうな華やかな祭りが、東北の夏を彩ります。これらの祭りは共通点があります。華麗な飾りものをつくること、賑やかな囃子に合わせ、工夫をこらした衣装をつけた踊り手が華やかに踊ること。こうしたアイディアの元をたどると、平安時代、都で行われた「御霊会(ごりょうえ)」に行き着きます。

青森ねぶた祭り

感染症と御霊会

各地から人が集まり、都市化が進みつつあった平安京。衛生状態のよくない環境で「密」になる。流行病が一気に広がる条件がそろっていました。ワクチンも治療薬もない時代、感染病はどれだけ恐ろしかったか。人々は、それを「御霊」というすさまじい力をもった存在のしわざだと考えたのです。

御霊は凶暴な一方、丁寧に扱えば私たちを力強く守ってくれる存在でもありました。かれらをもてなし気持ちを和めてもらうための祭り、それが「御霊会」でした。御霊に集まってもらうための目印として華やかな装飾をほどこした大きな傘や吹き流しをつくり、賑やかな音楽や踊りで御霊をもてなし、祭りの喧騒に巻き込んで納まっていただく。この御霊会が京都祇園祭りとなり、少しずつ形をかえて全国各地へも伝わっていきました。

ねぶたハネト

祭りの力

もちろん、祭りで感染症から身をまもることはできません。しかし、コロナ禍のなかで、私たちは、感染症の怖さが病そのものだけではなく、正体不明の「不安感」とも関わることを経験しました。やり場のない不安感はやっかいなもの。その負の感情を、非日常的な高揚感、賑やかな音楽と踊りの興奮のなかで解消する。それによって人とのつながりを確認し、前向きのエネルギーを蓄える。祭りがもつそのような力を、私たちの文化は深く理解し、活用してきたのでしょう。

祭りの力を、思う存分実感できる夏が来ますように!

宮城学院女子大学よさこい部

そして「よさこい」

多くの人をひきつける「ヨサコイ」。高知の夏祭りをもとに、北海道の学生たちが創作したイベントですが、いまや全国規模の人気を誇ります。本学の学生サークルのなかでも人気を集めるひとつ。衣装と振りを工夫し、音楽にのって思い切り体を動かす。ここにも、夏祭りのスピリットが生きています。

宮城学院女子大学 一般教育部教授
音楽リエゾンセンター長　大内 典